

形名
PAC-SG81DR 液管外径φ6.35用
PAC-SG82DR 液管外径φ9.52用
PAC-SG85DR 液管外径φ12.7用

(取付け前に本説明書と室内ユニット、室外ユニットの据付工事説明書をよくお読みください)

安全のために必ず守ること

- 据付工事は、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

警告 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの。

注意 誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつくもの。

- 据付工事完了後、試運転を行ない異常がないことを確認してください。
- また、この据付工事説明書は取扱説明書とともに、お客様で保管いただくように依頼してください。

警告

据付けは、販売店または専門業者に依頼する。

- お客様自身で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災等の原因になります。

据付工事は、冷媒R410AまたはR32用に製造された専用のツール・配管部材を使用し、この据付工事説明書に従って確実に行う。

- 使用しているHFC系R410A冷媒またはR32冷媒は、従来の冷媒に比べ圧力が約1.6倍高くなります。専用の配管部材を使用しなかったり、据付けに不備があると破裂・けがの原因になり、また水漏れや感電・火災の原因になります。

冷媒配管は、JIS H 3300「銅および銅合金継目無管」のC1220のりん脱酸銅を、配管継手は、JIS B 8607に適合したものを使用し、配管接続を確実に行う。

- 配管接続に不備があると、アース接続が不十分となり感電の原因になります。

据付けや移設などの場合は、冷媒サイクル内に指定冷媒以外のものを混入させない。

- 空気などが混入すると、冷媒サイクル内が異常高圧になり、破裂などの原因になります。
- 指定冷媒以外を封入すると、機械的不具合・誤作動・故障の原因となり、場合によっては安全性確保に重大な障害をもたらすおそれがあります。

設置工事終了後、冷媒が漏れていないことを確認する。

- 冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。

据付けをする前に

注意

特殊環境には使用しない。

- 油(機械油を含む)、蒸気、硫化ガスなどの多い場所、海浜地区など塩分が多い場所、積雪により室外ユニットが塞がれるところに使用しますと性能を著しく低下させたり、部品が破損したりする場合があります。

可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがある場所へは据付けない。

- 万一ガスがユニットの周囲にたまり、発火・爆発の原因になります。

据付け(移設)・工事をする前に

注意

冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。

- 不完全な断熱施工を行うと配管等表面が結露して、露たれ等が発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になります。
- 接続部の断熱施工は、気密試験後に行ってください。

フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付けること。

- フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。

試運転をする前に

注意

運転を開始する12時間以上前に電源を入れる。

- 電源を入れてすぐ運転開始すると、故障の原因になります。シーズン中は電源を切らないでください。

運転中の冷媒配管を素手で触れない。

- 運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになるおそれがあります。

冷媒R410A/R32使用機器使用上のごお願い

注意

冷媒配管は、JIS H 3300「銅および銅合金継目無管」のC1220のりん脱酸銅・配管継手は、JIS B 8607に適合したものを使用する。管および継手の内外面は美観であり、使用上有害なイオン・酸化物質・ゴミ・切粉等(コンタミネーション)の付着が無いことを確認する。また配管の肉厚は所定のものを使用する。

- 冷媒配管の内部にコンタミネーションの付着があると冷凍機油劣化等の原因になります。
- 既設配管を使用する場合は下記点に注意してください。
 - ・フレアナットは製品に付属されているもの(JIS第2種)に交換してください。また、フレア部は新たにフレア加工してください。
 - ・薄肉配管の使用は避けてください。
 - ・再使用しようとしている配管本体に腐食・亀裂・傷・変形などがないことを点検してください。また、断熱材・支持部材等が著しく劣化していないか点検してください。劣化がある場合は補修または交換してください。

フレア部に塗布する冷凍機油は、エステル油またはエーテル油またはアルキルベンゼン油(少量)を使用する。

- 鉱油が多量に混入すると冷凍機油劣化等の原因になります。

当社指定以外の冷媒は使用しない。

- 封入冷媒の種類は、室外ユニットに付属の据付工事説明書あるいは銘板に記載されています。
- 指定以外(R22等)の冷媒を使用すると、塩素により冷凍機油劣化等の原因になります。

工具は、室外ユニットが指定する冷媒用に製造された専用ツールを使用する。

- 使用する専用工具は室外ユニット付属の据付工事説明書をご確認ください。

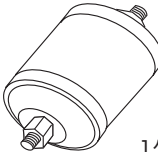
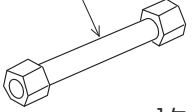

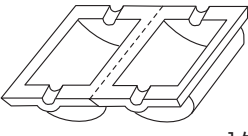
工具類の管理に注意する。

- 冷媒回路内にほこり・ゴミ・水分等が混入しますと、冷凍機油劣化の原因になります。

据付けに使用する配管は、屋内に保管し、両端ともロウ付けする直前までシールしておく。(エルボ等の継手はビニール袋等に包んだ状態で保管)

- 冷媒回路内にほこり・ゴミ・水分が混入しますと、油の劣化・圧縮機故障の原因になります。

この箱の中には、この説明書の他に下記の部品が入っていますのでご確認ください。

①配管ドライヤ	②接続パイプ	③断熱材
 1ヶ	PAC-SG81DR(φ6.35用) PAC-SG85DR PAC-SG82DR(φ9.52用) (φ12.7用)の場合 の場合  または  1ヶ	 1ヶ

取付要領(下記の説明をよく読んで組み込んでください)

ご注意

- この別売部品は、冷媒配管内の水分を取り除き圧縮機の故障を防止するために取付ける部品です。ただし、水分混入量等冷媒回路内の汚れが非常に多いと指定された場合は、1シーズン経過後ドライヤ交換が必要です。(水分吸着量は3~7cc)
- 配管ドライヤは、冷媒配管の液側の途中にフレア接続にて取付けてください。
- 配管ドライヤは、ユニット外への取付けが可能です。ユニット内への取付けの場合は、取付けスペースが確保できる場合のみ可能となります。

1 取付準備

- 1) 室外ユニットのパネル取外し、冷媒配管および、真空引き等の要領はユニットの据付工事説明書を参照ください。
- 2) パネル取外し
 - ・ サービスパネルとカバーを取外してください。
- 3) 配管接続
 - ・ 配管を曲げる際、曲げR(R100~R150)を十分にとり、折らないように注意してください。
 - ・ 配管は圧縮機に接触しないように施工してください。(異音、振動の原因になります)
 - ・ 現地对応の接続パイプはフレア加工をしてください。
 - ・ フレアシート面に冷凍機油(現地手配)を薄く塗付してください。

銅管外径(mm)	フレア部加工寸法φA(mm)
φ6.35	8.7~9.1
φ9.52	12.8~13.2
φ12.7	16.2~16.6

フレア形状	冷凍機油 塗布位置
	フレアシート面全周に冷凍機油を塗布

パイプ径 (mm)	B寸法(mm)	
	R410A・R32フレアツール	R22・R407Cフレアツール
	クラッチ式	
φ 6.35(1/4")	0~0.5	1.0~1.5
φ 9.52(3/8")	0~0.5	1.0~1.5
φ 12.7(1/2")	0~0.5	1.0~1.5

※従来のツールを使って冷媒R410AまたはR32用のフレア加工をする場合は、上表を参考に加工してください。
出し代調整用の銅管ゲージを使用すれば、B寸法が確保できます。

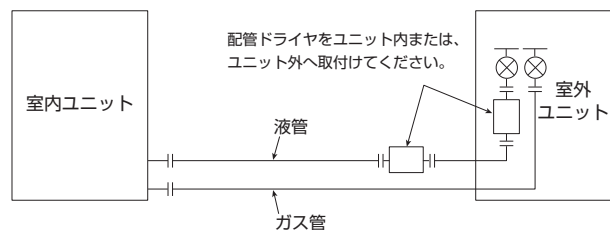
〈トルクレンチによる適正な締付トルク〉

銅管外径(mm)	締付トルクN・m(kgf・cm)
φ6.35	14~18(140~180)
φ9.52	34~42(340~420)
φ12.7	49~61(490~610)

2 配管ドライヤの取付け

配管ドライヤは、必ず液側配管(細い方)に取付けてください。

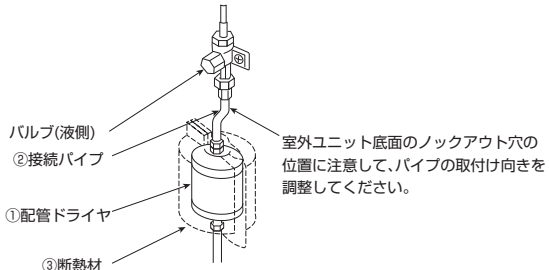
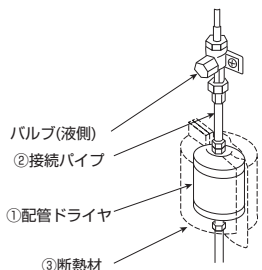
- 1) 配管ドライヤをユニット内に取り付ける場合には、スペースに応じて〈図1,図2〉を参照しドライヤを取付けてください。
また、ドライヤ取付けのスペースがない場所には、ユニット外の取付けとなります。〈図3〉



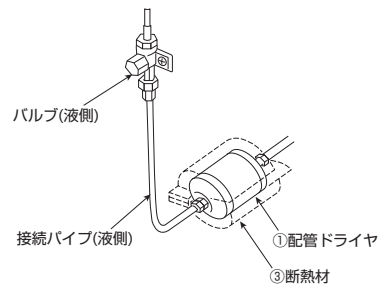
配管ドライヤ取付図〈図1〉
(ユニット内取付)

PAC-SG81,82DRの場合

PAC-SG85DRの場合

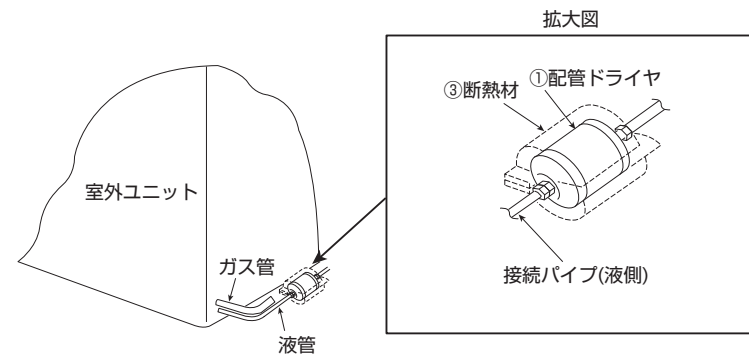


配管ドライヤ取付図(ユニット内水平取付)〈図2〉



- 2) ユニット外へ取付ける場合は延長配管の任意の場所に取付けてください。
接続パイプは現地にて製作対応してください。

配管ドライヤ取付図(ユニット外取付)〈図3〉



- 3) 断熱工事(露たれ防止)
 - ・ ドライヤ取付後、ドライヤ部分に断熱材を巻き付けてください。
※断熱材の継目にはテーピングを施して隙間が生じないように施工してください。
 - ・ その他配管部分も断熱材を巻き付けてください。

3 以上で配管ドライヤの取付けは完了です。元通りにサービスパネル等を取付けてください。

4 試運転

- 1) ユニットの据付工事説明書に従って試運転を行い、ガス漏れチェック、運転チェックを必ず実施してください。